

平成29年度事業報告書

神戸市立たちばな児童館放課後児童クラブ

1. 《学童保育目標》

- 豊かな遊びや経験を通して、健やかな育成を図る
- 保護者、地域社会との連携を図り、よりよい子育て環境作りを行う

2. 《平成29年度目標》

- 児童一人一人と丁寧に向き合う
→信頼関係が築けるよう、たくさん関わり、楽しいことを共感した。
- 安心して学童保育を利用できるよう、保護者との連携作りに努める
→細目に連絡をしたり、お便りを配布して理解を深めた。

3. 《指導内容》

- ① 健やかで安全な環境作りに努めるとともに、限られた場所と時間の中で自立を支援する指導を行ったり、人間関係が円滑にいくよう指導を行った。
・学習支援 ・絵本の会 ・けん玉遊びの推奨 ・おり紙教室
- ② 学校や地域と連携を密に行い、子どもの安全確保・自立支援に努めた。

4. 《年間行事》

4月	新入生歓迎会
5月	楠北まつり参加
6月	七夕飾り作り
7月	たちばなカフェ 夏祭り
8月	サマープログラム（工作、ゲーム）交通安全指導 ビデオシアター 紙芝居 地域こども神輿参加
9月	運動遊び
10月	ハロウィンパーティー
11月	クリスマス飾り作り
12月	クリスマス会 清風児童館お楽しみ会参加 たちばなカフェ
1月	かるた大会 けん玉グランプリ 地域防災訓練参加
2月	新1年生資料配布 地域文化祭参加
3月	お別れ会 入会説明会 遠足 共同募金街頭活動参加 たちばなカフェ

5. 《月間行事》

誕生日会・けん玉検定・おりがみ教室・おはなし会・みんなであそぼう
セカンドステップ

6. 《初日在籍数》

	1年生(人)	2年生(人)	3年生(人)	4年生(人)	5年生(人)	合計
4月	45	19	16	3	1	84
5月	47	19	15	3	1	85
6月	48	21	18	3	1	91
7月	50	21	18	4	1	94
8月	50	21	18	4	1	94
9月	49	20	18	4	1	92
10月	51	19	18	4	0	92
11月	50	18	18	4	0	90
12月	48	17	18	4	0	87
1月	49	17	18	4	0	88
2月	50	17	18	4	0	89
3月	50	17	18	4	0	89
合計	587	226	211	45	6	1075

7. 《防災・防犯訓練》

月日	訓練の種類	参加人数
5月17日	防犯訓練	61
6月23日	地震訓練	72
9月1日	地震訓練	61
9月22日	火災訓練	71
10月18日	防犯訓練	64
11月9日	火災訓練（センター訓練参加）	61
11月22日	地震訓練	58
12月12日	火災訓練	69
1月13日	避難訓練（地震、津波）…地域の訓練に参加	16
1月17日	地震訓練	38
2月21日	火災訓練	57
2月23日	防犯訓練	63
3月22日	火災訓練（センター訓練参加）	53
3月26日	防犯訓練	50

8. 《会議》

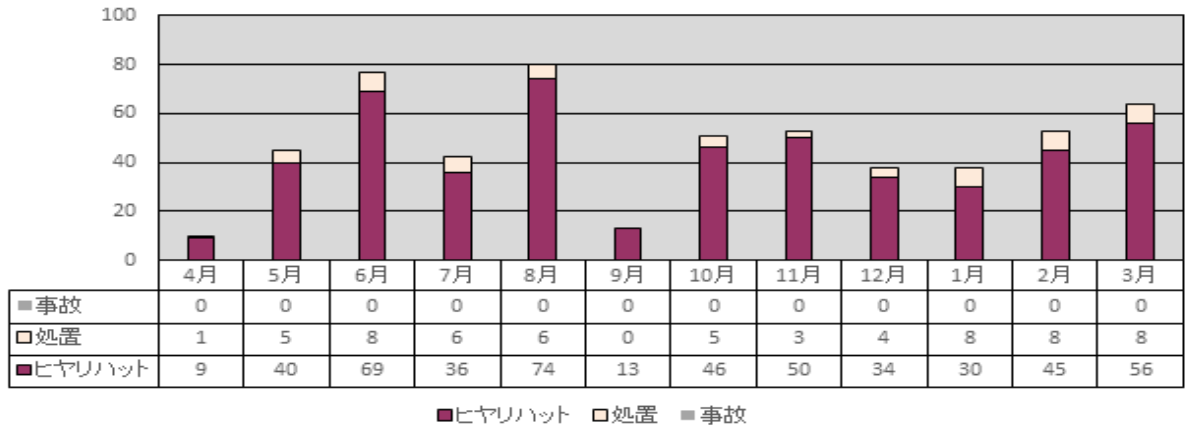
毎月職員会議を行った。児童について・児童の関わり・作業手順の統一・学童保育の約束事の共通理解・問題点や改善点について話し合った。

9. 《リスクマネジメント報告》

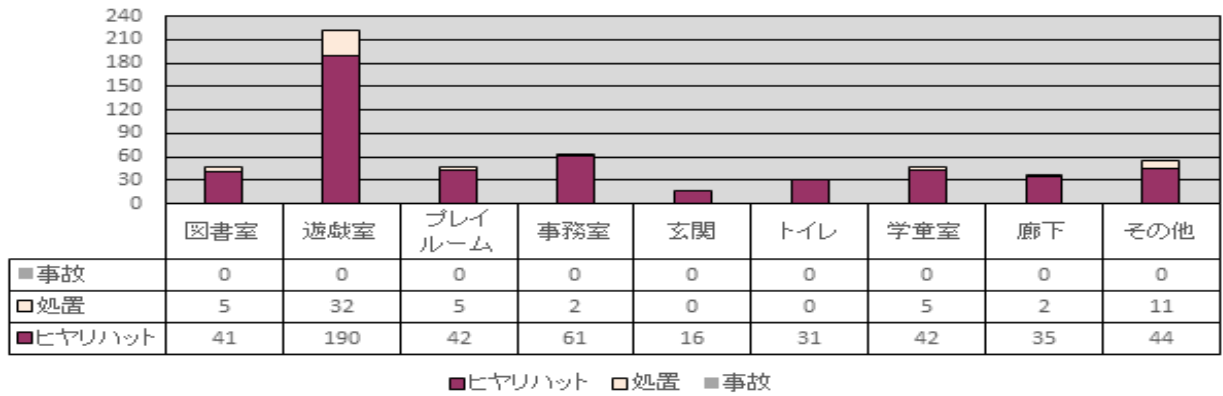
※医師の診察を受けた怪我を事故と定義する。

報告件数 合計564件（ヒヤリハット502件 処置62件 事故0件）

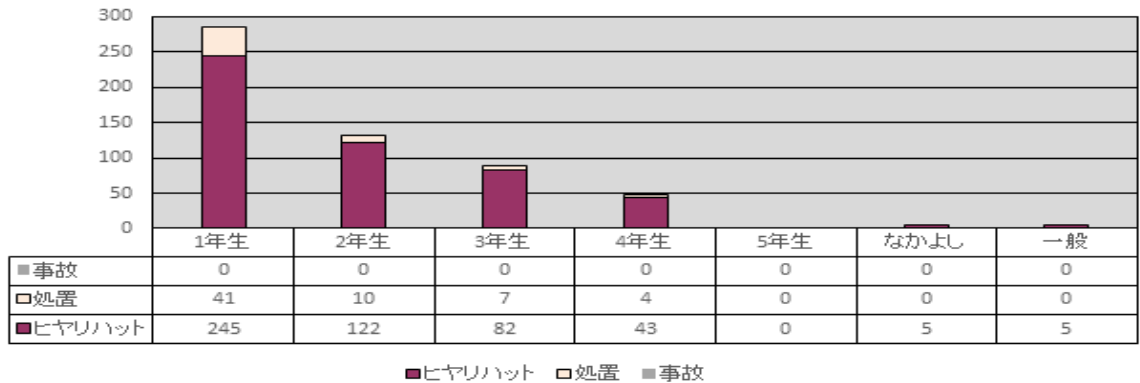
①月別発生件数



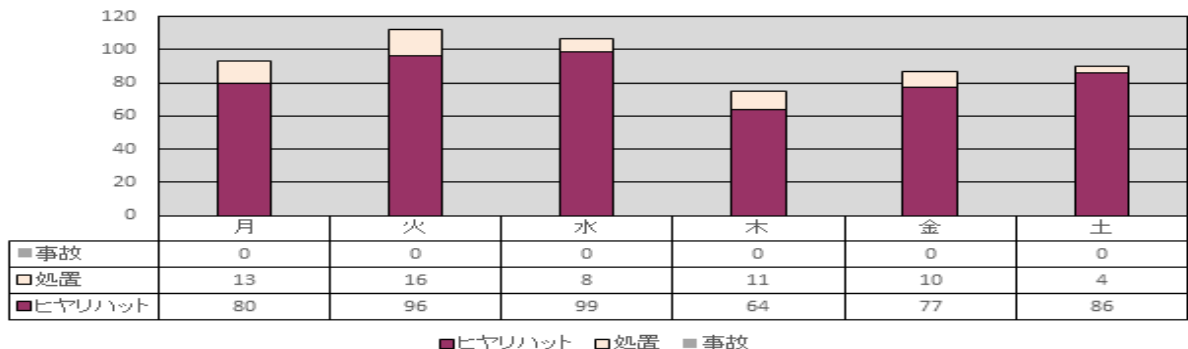
②場所別発生件数



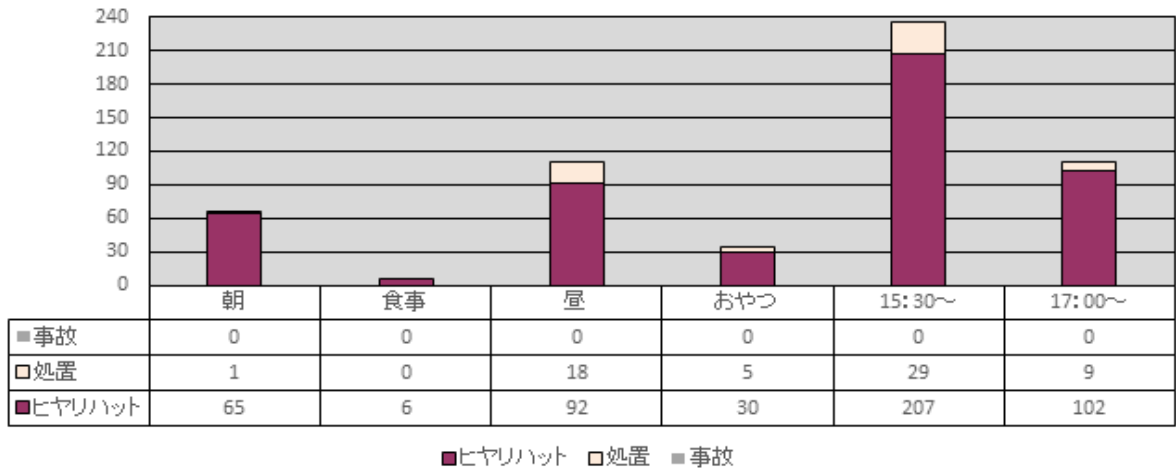
③学年別発生件数



④曜日別発生件数



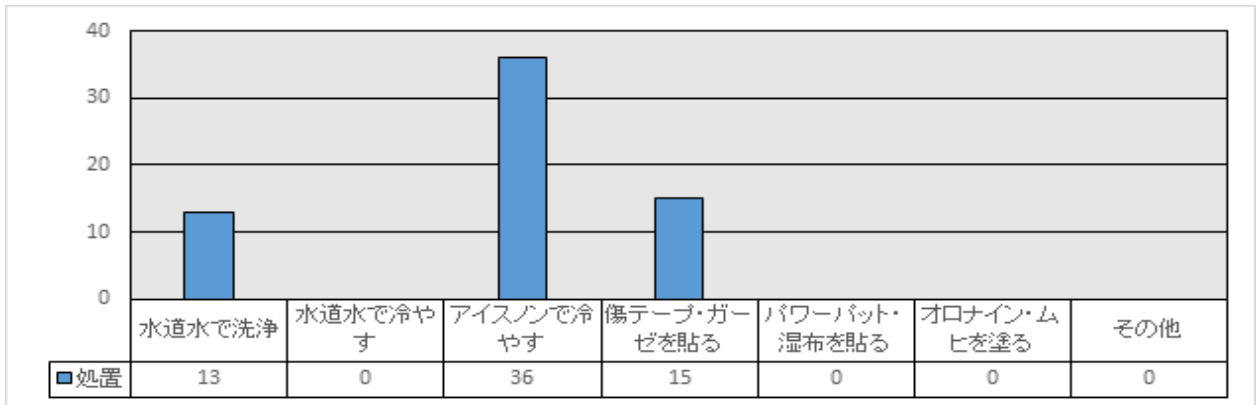
⑤時間帯別発生件数



⑥事故発生内容

→発生件数0件だった。

⑦処置内容



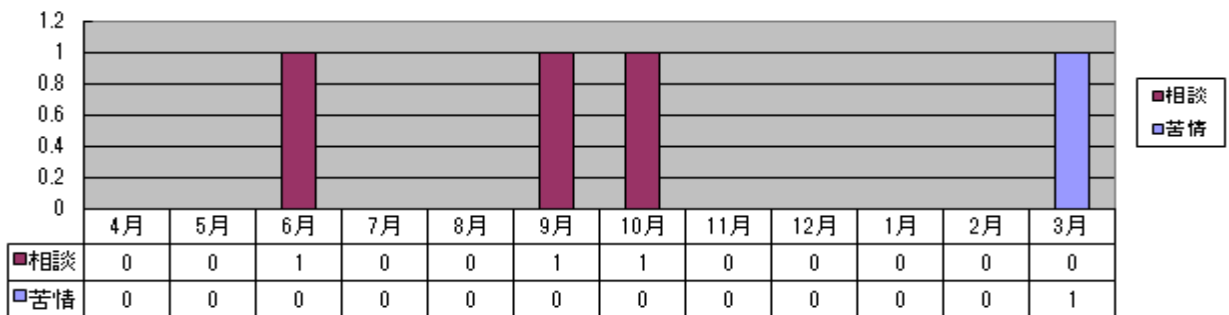
⑧まとめ

遊戯室で遊んでいる時、児童同士のぶつかり、ふざけあって勢いが余ることが多い。遊戯室での遊びや児童同士の関わりは大切だが、トラブルが多い場所であることを職員全員で認識し、怪我に至らないように見守り、援助する。

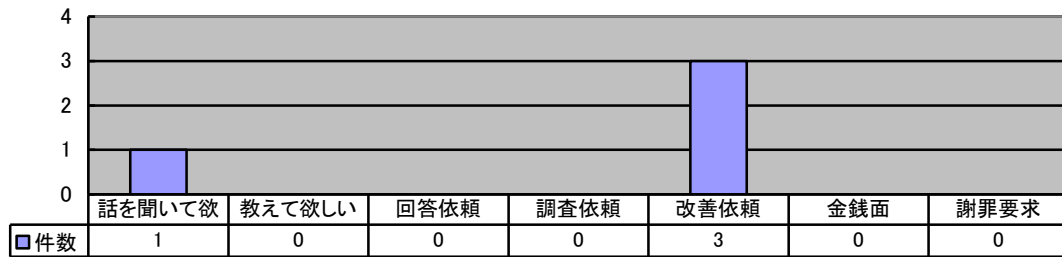
10. ≪苦情・相談結果報告≫

苦情の定義→館長が直接対応した件を苦情とする。

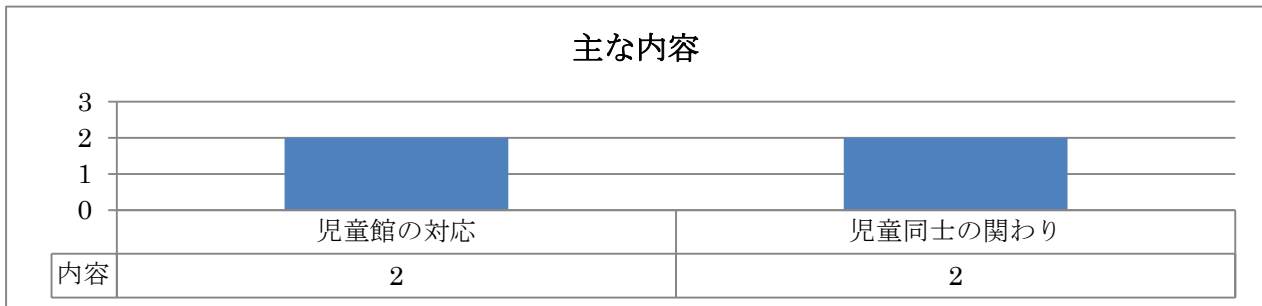
○報告件数・・・4件 苦情…1件 相談…3件



要望分類



主な内容



○まとめ

※苦情は館長が対応した場合と定義している。

年間を通して件数自体は少なかったが、館内の環境等、安全面についての内容に関わることがあったので、職員間での危機管理の意識を強め、報告、連絡、相談の徹底と、迅速な対応を心がけ、子どもも大人も安心して利用できるようにしていく。

1 1. 《総括》

地域の児童数が増えており、1年生のクラス編成が4クラスになったこともあって、学童保育の登録児童数が前年度より約1.5倍となりニーズの増加が見られた。また、今年度は高学年の対応の難しさにも直面し、思春期に差し掛かった児童の反抗等、コミュニケーションの難しさを痛感した1年となった。今後、高学年が学童保育を利用することが増えていくことが予想されるので、高学年児童についてより学び、児童自身が考えて活動などができるようにするなど、満足感を得られるように考えていく。低学年とも一人一人と十分関わり、児童にとって大好きな場になり、自分を出せる場になるよう努めたい。

通学路に変質者が出ることも何度かあったので、今後とも地域の行事に積極的に参加するなどして、地域の方々に、もっと気にかけてもらえるようにしていきたい。言葉が乱暴な児童が多く、室内で暴れている児童も多いので、躰も大切にしていきたい。児童が伸びやかに成長でき、時代のニーズにも対応できるよう職員全員で研鑽し、資質向上を図っていきたい。